

下関市総合計画審議会
第4回やさしさ部会
議事要旨

日 時 令和6年7月17日(火) 午後2時～4時

場 所 商工会館 3階会議室

出席者 藤澤委員、中山委員、山本委員、西川委員、伊藤委員、橋本委員、井上委員

議題

- 1 第3回専門部会と第3回全体会の振り返り(委員意見への対応と素案修正)
- 2 目標指標(KGI・KPI)の基準値・目標値、主な取組
- 3 基本構想
- 4 今後の予定

1 第3回専門部会と第3回全体会の振り返り（委員意見への対応と素案修正

第3回専門部会での振り返りと委員の意見を踏まえた修正点を、素案を用いて事務局より説明。

2 目標指標（KGI・KPI）の基準値・目標値、主な取組

事務局より説明。

（委員）

○KGI「下関市は子育てがしやすいまちだと思える保護者の割合」

基準値が58%となっている。5年後には5%の上昇を目標値に設定しているが、誤差の範囲と感じる。目標値設定の根拠を確認したい。あまりワクワクしない設定と感じる。

（こども未来部）

○2019年の時と比べ、すでに6%下がっている。だが目標設定を行ったとしても、数値は中々上がらないため本来は据え置きにしようと考えていた。

一方で、国が施策の展開を考えている中で、前半5年は0.3ポイントの上昇、後半5年は0.2ポイントの上昇に設定した。数値の上昇の見込みは厳しいため、数値設定は少々抑えたものになっている。2030年度までには少子化に歯止めをという国の方針もあるので、やや強めて0.3ポイントの上昇とした。

（委員）

○2019年より6%減少しているから、現状維持よりは上向きに設定したという説明はわかるが、アンケート調査なので本来は下落傾向にあるのに数値の維持が出来れば成功したという印象でとらえられるように感じる。

（こども未来部）

○維持することも難しいと考えるが、国の方針もあり、数値を上昇させたいという思いがあり、上昇ポイントとして前半0.3、後半0.2に設定した。

（部会長）

○子育てアンケート調査の対象は何人か。

○高い目標数値を設定するのは簡単だが、実現出来る見込みのある数値で設定していると認識した。

○また、市民実感調査の対象は何人か。

○アンケート調査は毎年ではなく5年や10年など、決まった周期で行うのか。

○その毎年度の結果はHP等で公表しているか。

（事務局）

○子育てアンケートの対象は2,000人、市民実感調査の対象は2,500人である。

○本来は定量的な数値を取りたいが、やさしさ部会は全体的に施策が多く、定性調査が多くなっている。そのため市民実感調査アンケートは毎年6、7月に実施・回収を行う。その後効果測定を行う予定となっている。

○結果に関してはHPで公表する。

(委員)

○OKPI「理想だと思うこどもの人数として、3人以上と回答した保護者の割合」の目標数値に関して質問がある。

こちらも57.5%を基準値として、目標値が59%、60%を目指していくと見受けられる。これらは前回の結果等があった上での数値なのか。これでは3人以上の子どもを育てていく人は増えるとは感じない。どのような根拠があるのか。

(こども未来部)

○新規に設定したものであり、前回結果から得たものではない。今回のKGIの増加に合わせて前半0.3後半0.2ポイントの上昇で数値を設定している。

(委員)

○数値設定が理想の人数と理解した、実際に多子世帯が増えたかななどの数値をKPIに組み込むことは出来ないのか。理想ではなく、実際の増加率があった方がまちの現状を理解しやすいと思う。

(こども未来部)

○今は現実的なこどもの人数は2人というのが52.9%で1番多い。現実と理想の差がどれほど縮まったかについては内部では見ていきたいと思う。

(委員)

○KGIとKPIに関する意見がある。まちの向上を考えた時には、全国的な数値との比較が必要になると思う。比較を基に見直す分野等が見えてくると感じた。

(事務局)

○目標値の設定や根拠に関して、確かに弱いところもある。

例として全国学力学習状況調査については、全国よりも落ち込んでいるため全国を100としたら100で設定する形となる。これは全国の傾向を示した中で設定出来るものは設定しようとしている。

例えばKGIの生産性向上だが、1人当たりの雇用や企業所得は明確な数値目標を設定し、本市のGDPは9,500億になるが、過去は9,800億まで伸びたこともある。そこで、10年後1兆円にするために設定した際、1人あたりの報酬や企業所得の伸び率を北九州市と比較して客観的な指標で出せるものについて、全国なり、同じ経済経費の数字の伸びを勘案して目標を設定している。

アンケートに関しては、共通的なアンケート調査は基本的に数値を意識しているが、地域性が高い場合、他のまちと同じようにアンケートを行ったとしても回答に解離が生じるため比較が難しい。

現実問題として難しいところがあるが委員の指摘通りに、ベンチマーク等を意識してKGIやKPIの設定を今後の留意点だと考える。

(部会長)

○OKPI「全国学力・学習状況調査における全国と本市の比較値」について質問したい。基準値が昨年度の調査結果を基に、全国平均を100という形で目標値を設定してあると思うが、これは全国あるいは山口県に比べて下関市の状況が良くないという意味になるのか。そのため基準値について伺いたい。

(教育部)

○全国学力学習状況調査については、本市は全国平均より低いことから、全国平均まで持ってい

きたいと考えているため、100 という数値設定をしている。最終目標は全国平均を超えていくのが望ましいが、まずは100 からという目標値を立てた経緯となる。

(県との比較は以下のとおり)

	市	県	国
国語 小6	66	67	67.2
※国・県平均 100		(98.5%)	(98.2%)
算数 小6	60	61	62.5
※国・県平均 100		(98.4%)	(96.0%)

	市	県	国
国語 中3	68	70	69.8
※国・県平均 100		(97.1%)	(97.4%)
数学 中3	49	52	51.0
※国・県平均 100		(94.2%)	(96.1%)

(委員)

○この市民実感調査というのは2年に1回行うと聞いた。この対象となる人たちは2年ごとに変わるのか、または固定か。

(部会長)

○2,500人が対象で回収率はどれほどなのか。

(事務局)

○市民実感調査は毎年実施しており、対象者はランダムで設定される。下関市の男女比、地域別、年齢を基に設定され大体2,500人に通知を出している。記名でもないので追跡調査は出来ていないのが現状である。

○今までの2,500人の調査で大体回収率が4割弱の37%あたりになる。特に若い世代からの回収率が低いので、来年からは新たに2種類の調査を行うことを検討しており、現役で子育てを行っている世帯や若者に特化したアンケートを今後追加で行うことを視野に入れている。

(部会長)

○そうであれば、4章3節は、高齢者等が対象であれば高齢者をターゲット、障害のある人が対象であれば障害のある人がターゲットになるアンケートを行うという認識で良いか。

○KGI、KPI共に市民実感調査の結果により目標値が大きくなっていくと思う。市としても難しいと思うが実態が反映できるように、指標、対象者、回収率向上を意識して、調査を行う方が良いと感じた。

(事務局)

○全てのターゲットを細分化することは難しい。回収率の多くは高齢者であり、高齢者を外してしまうとn値(件数)が下がってしまう。

新たな取り組みとして、若者ターゲットにしているところが今回の総合計画の基本計画の1つになっていることもあり、調査の追加を考えている。これは子育て世代として現役の方に向けたアンケートを取るもので、当面の間は基本的に一緒にアンケート対応をしていくつもりである。

(委員)

○KGI や KPI の数値を議題として進めているが、市民が理解出来るのかが気になった。専門用語や数値目標を見たとしても、市民に分かりづらいと感じる。より市民が分かりやすいものにした方が良いのではと思った。10年計画に現実的な数字を提示し、各部署はこういった業務を行うと記載した方が伝わりやすく感じる。

(事務局)

○数値だけを羅列しても、分かりづらい部分はあると思う。例として消防自動車を何台か買うためにこの施策を行うという方が1番市民には分かりやすいと思う。

その中で、まずは下関の総括的な課題と解決策の方向性を出して、この方向性を数値という形で示した。確かに数値ではなく、簡潔に文章化をした方が伝わりやすいと思う。だが計画に基づいた予算や予算に対する効果等が形となった時に、総合計画のKPIという数値が活きてくる。この目標に対し、現状どれほど進んでいるのかが分かることになる。

(部会長)

○総合計画とリンクする予算などはHPで公表しているのか。

(事務局)

○市民からの関心が高いため記者発表やHPで全部予算等も含め掲載はしている。また決算時にこの事業を行った効果はどのようなものがあつたのか、KGIとKPI以下に200以上、各事業課の所管部局が取り組む予算に対して指標を設けている。これらはすべて総合計画に基づくものとなっている。

(部会長)

○各事業課の指標とあつたが、KGIとKPIに関係あるのか。

(事務局)

○今までの総合計画ではKGIは存在感が薄いものだった。今回61のKPIを設定し、各所管部局全部が重点施策や予算に対して、全て活動指標(約200)を持っている。それらを今回整理したKGIと61のKPIのどこに所属するかというのを体系化することを大きな目的としている。現在は各事業の最終目標の明確化に向けて指標の整理をしている段階になる。

3 基本構想

基本構想について事務局より説明。

(委員)

○基本構想(3)子ども、子育て、教育

和暦と西暦が混在しているため統一した方が見やすいと思う。加えて改ページされて説明が記載されている部分があるので修正した方が読みやすいのではと感じる。

(事務局)

○次回8月20日の全体会でお渡しする素案においては、西暦の表記の仕方、言い回し、語尾等を皆様から意見が全部固まった後に修正を行い、全て直し提示予定である。

(部会長)

○基本構想(3)子ども、子育て、教育

少子化対策に向けて柱のような具体的な事項は記載出来ないか。ここは大きな枠組みで記載する部分で、具体的な文言は難しいと思うが、少子化は一番の課題であることから、もう少し記載は難しいものか。

○国の政策等もあるかと思う。国の状態と本市の状況は違うためバランスを見て記載出来る部分は記載を検討して欲しい。

(こども未来部)

○国が2030年までに少子化の回復をするという動きがある中で、少子化対策の実現に向けた文言を記載する。

(委員)

○基本構想(4)健康・保健・福祉・医療

下関市の課題としては地域の差があること、総合支所管内と本庁管内など保険や福祉、医療については特に課題があると思う。これらをこの中で少しでも触れることが出来ないのか。

(福祉部)

○福祉部関係で回答すると、確かに地域格差の課題はあると思うが、同時に福祉だけではないと考える。産業や経済においても様々な格差がある中で、福祉関係のみ記載することは良いとは言えないと思う。

○福祉としては地域で安心して生活が出来るというのが、キーワードになってくる。地域で安心して生活が継続出来る環境作りが必要という課題がやはり福祉部にはある。それを細かく、どういう事業をやってどういう政策をやるというのは各章に記載があるため、そちらで確認いただきたい。

また障害においても、現在複雑化した課題があるが、それはまた地域や旧市内において、高齢者と子どもが絡むような色んな複合化した課題に対して今の体制が必要ということで記載している。全体的な課題や位置づけ等があるため、そちらで確認いただきたい。

(事務局)

○確かに福祉に限らず地域格差はある。基本構想に、地域のゾーニングという形で都市拠点像と環境共生と交流ゾーンを設け地域連携軸の形成がある。市全域の記載の部分で、地域性の記載は難しいのが実状。総合計画において基本的にはこのページで表現したいと考える。

○また、この章とは違うが、1つのまちづくりで地域差の特性がある。素案5章の「方向性」。その中で、まちづくりの1つの方向性として、中心市街地から農山漁村に至る多様な地域特性を生かしながら、各地域の適正な役割分担とそれらの連携により、市全体の一体的な町づくりを推進する旨を表記している。ハード、ソフトも含め、とにかくバランスよくその地域特性を生かした一体的な連携、それと一体的なまちづくりというところが他の章でも表記している。その辺りで理解していただきたい。

(部会長)

○各委員にキャッチコピーについて意見をうかがいたい。

(事務局)

○リード文を入れる、文章を長くまたは短くするかは皆様の意向を持って専門家に依頼しようと検討している。そのため皆様にキーワードをいただきたい。この場で、キーワードでなくとも方

向性等の意見があれば伺いたい。あくまで1つの意見として聴取するため、この場で決定とはならない。

(委員)

○考え方としては短く、覚えやすく、こどもでも言えるものが良い。

(委員)

○覚えやすくキャッチーな言葉が良いと思う。市長がワクワクと言っていたこともあり、ワクワクという言葉に記載しても良いのではと感じた。

(委員)

○下関市には自慢出来るものが多くあると感じる。そういった自慢出来るものを簡単な言葉で発信してほしい。

(委員)

○方向性としては短くて覚えやすい、子どもでも読むことが出来るものが良い。またアンケート等から子育て支援に関する思いが見受けられたので、子育てや子どもの笑顔がみられるようなキャッチコピーが理想的だと感じる。

(部会長)

○住みたい、やさしい、ワクワクを入れて3つのキーワードで構成してほしいと思う。してほしいと思う。

(委員)

○言葉を連ねると長くなってしまうと思う。まちらしさは必要だが、海峡都市等の難しい言葉を使うというよりは、子どもや学生などの若い方々が見た時に、自分たちの未来が連想出来るような短いワードや一言で感じる事が出来ると良いのでは考える。

また海外の人が見た時に分かるような英語表記を使った文言なども好ましいと感じる。表紙のビジュアルも非常に重要だと思う。

(委員)

○基本的にシンプルかつ短いものが良いと思っている。また人と地域と行政、交流や連携という言葉が良いと感じる。海峡都市はすでにわかっている言葉。3文字程度でそれをプロの方に書いてもらうのも良いと思った。

(事務局)

キャッチコピーについては、第4回専門部会で委員の皆様にご意見を踏まえ、これまでの審議経緯も把握いただける専門性のある方に相談した上で、8/20全体会にてお示しする予定。

4 今後の予定

以上